

食品概況レポート

(アラブ首長国連邦・クウェート国・オマーン国・カタール国・バーレーン王国)

湾岸諸国における食を取り巻く共通点：

<環境>

アラビア湾に面している、アラブ首長国連邦(UAE)・クウェート・オマーン・バーレーン・カタールは、砂漠が国土の大部分を占め、高温で雨量が乏しく（年間降水量は 100mm 以下）、農耕気候条件としては非常に厳しい環境にあり、ほとんどが輸入に頼らざるを得ない状況にある。石油を収入源に発展してきた湾岸諸国は、GDP も総体的に高く、世界中から物資が調達できる環境にある。生活の質の向上に伴い、食に対する質・需要などが変化してきている。湾岸諸国(GCC)は 2025 年に 6,650 万人に達するとされ、年平均成長率は 2.3%と、どの国も増加する人口に対する、食の確保・食の安全保障は国策の重要案件となってきている。外国人労働者の人口も多く、嗜好が多様である事、一般的に自国民は民間の企業よりも、政府関連企業に勤務している場合が多く、民間の企業では自国民以外の人々が商談などの対応することが多い。どの国も観光に力を入れており、大型ショッピングモールの建設、海外からのホテル進出、外食チェーンなどの開設も多く、食の多様化・質の充実を測っている。

<現況>

パンデミック前の 2018 年、サウジアラビアを含む湾岸諸国の食品・飲料(F&B)の市場規模は 1,300 億ドル、サウジアラビアだけでも市場シェアの半分以上を占めており、アラブ首長国連邦が 31%を占め、この地域で 3 番目に大きい F&B 市場であるクウェートは、年間 9.6%という最速の成長率で、2021 年までに湾岸諸国の飲食関連は 1,960 億ドルに達し、年間 7.1%の健全な成長を続けると予想されていた。

(*Times of Oman /MENA Research Partners)

2019 年後半よりのパンデミックによって、F&B(レストラン・バー・カフェ)業界は GCC 全体で、売り上げが 30~80%激減した反面、2020 年 3 月時点ではスーパー・ハイパーマーケットでの売り上げが、前年同月比で 20-40%増加、ある UAE のグロッサリーデリバリーサービス会社では、アプリのダウンロードが 70%、1 日あたりの注文が 50%、一回あたりの購入額が 60%増えたという報告がある。(**Navigating the Pandemic KPMG)

観光・飲食業界は大打撃を受けたが、各国全般的に、ワクチン・ブースターなどの対応が早く、2021 年後半のオミクロン時にも素早く対応、2022 年 2 月現在、入国の緩和を実施しており、ドバイ万博やドーハのサッカー W 杯その他のイベントも来訪者の増加を見込み、パンデミック前の状態に戻す努力をしている。

<トレンド>

肥満から起こる糖尿病などの生活習慣病が GCC 全体で問題となっている。政府主導のキャンペーンも行われており、健康意識が高まっている。健康的な食習慣が促進され、オーガニック食品の需要も高まっている。パンデミック中、免疫レベルを強化したいという人々も増え、より栄養価の高い食品、ホームフード、非遺伝子組み換え、無農薬食品などに対する意識も高まった。新鮮な農産物に焦点が当てられ、消費者は植物ベースの製品に注目していると言われている。また、オーガニック・ビーガン・グルテンフリーなどのパッケージ食品なども目立ってきている。大規模な食品小売店の人気の高まりとグローバルな食品会社の参入で、調理済みパッケージ食品の需要がパンデミック中に急増するとともに、スーパー・ハイパーマーケットでは、より安く消費者に提供でき、利益率の良いプライベートブランド商品を展開する傾向が強くなった。アグリテックセクターへの大規模な動きが政府と民間企業のパートナーシップで行われており、最小限の資源の活用で最大の食料の生産を目指している。*** (Alpen Capital GCC Food Report 2021)

<食品輸入規制・関税>

イスラム圏での規制項目となる典型例としては、豚肉・豚由来の物やアルコールの使用がある。その他は一般的に添加物・香料・着色料などの使用については安全規定が定められている。食品輸出の際は取引先とのコミュニケーションを密にしてゆくことが大切になってくる。

また、湾岸諸国内では統一の基準も設けられており、市場に出回っている全ての食品はハラールとされ、ハラールの基準を満たすことが必須とされている。肉類（食肉用）とその調整品の輸入に関しては屠殺方法がイスラム教に則って行われたものであることの証明が必要である。一般市場の商品は豚肉エキス・アルコールの混入が禁止されており、その他禁止添加物が入っている場合は輸入許可が下りない。国によっては、ムスリム以外の人々用に豚肉・酒類を購入できる場所を設けており、政府の許可を得ているホテル・クラブでは酒類や豚肉を提供している。(UAE・カタール・バーレーン・オマーン)

通常の食品の輸入税は CIF 価格の 5% で共通。ただし、砂糖を使用する飲料は 50%、エネジードリンクは 100% の輸入税がかかる。(クウェートでは導入計画はあるが、現時点では明文化されていない。)

又、現在のところ、GCC 圏内の国で輸入され、通関した製品は他の GCC 圏内で輸入されても関税はかからない。生鮮野菜、鮮魚は無税となっている。

出典・参考資料：

* <https://timesofoman.com/article/53281-gcc-food-and-beverage-market-to-reach-196-billion-by-2021>

** <https://assets.kpmg/content/dam/kpmg/ae/pdf/navigating-the-pandemic.pdf>

** <http://alpencapital.com/research/2021/GCC-Food-Report-2021-September-06-2021.pdf>

アラブ首長国連邦(UAE)-食品概況

1. 国内の状況：

UAEは国土がほぼ北海道と同じであるが、人口は約1,000万人で、自国民が約12%で、外国人居住者が88%となっている。湾岸諸国としては、一番人口の多い、サウジアラビア（約3,500万人）の次に人口が多い。1970年代より、砂漠の緑化や農業開発を先進国よりの技術協力で取り組んでおり、最近では最新の技術を駆使した省エネ型の大型グリーンハウス・水耕栽培（アクアポニックス・ハイドロポニックス）を取り入れて栽培を行っている。ドバイ商工会議所の2021年度の発表によれば、国内には1000件の水耕栽培プロジェクトが存在する。また海外に農地を確保して栽培、国内に供給している企業もある。しかし、未だに10～20%と言われている食料自給率は人口の上昇と、観光に大きく舵を切っている国策もあり、自給率を上げる努力と共に、食の安定的な供給源を確保するのは重要な案件となっている。2019年度食の安全ランキングでは113カ国中、21位となっている。

Covid-19の影響により、1,673万人の観光客数が、2020・2021年度では1/3にまで落ち込み、ホテル・レストラン業界に深刻なダメージをもたらした。また、昨年度末よりのオミクロンの流行により、数字的には一段と厳しい状況となったが、国内では、人口の殆どが2度目のワクチンを終了、3度目のブースターも行われており、レストラン・ショッピングモールなどでは通常通りの営業、外国からの入国規制も緩和されている状態である。全体的な観光客数は減少しているものの、地元紙 Khaleej Times によると、不動産投資で訪れる人々が増えており、特に高級物件が好調で、全体的に不動産の値段が上昇していると報道されている。また、国際的なホテル・和食を含めた高級レストランの進出も目立っており、高級食材も使用されている。

アラブ首長国連邦の食料消費量の市場規模は、年率3.2%で増加すると予測されている。

2020年には890万トン、2025年には1,050万トンと推定され、パンデミック後の景気回復と人口の増加（2020～2025年の平均成長率3.1%予測）によって拡大すると見られる。（Alpen Capital GCC Food Report 2021 <http://alpencapital.com/research/2021/GCC-Food-Report-2021-September-06-2021.pdf>）

2. 食品輸入・輸出規模・推移

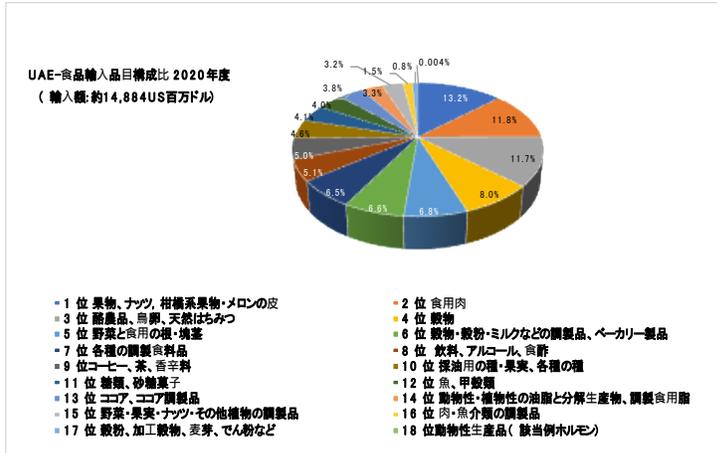
UAE食品輸入額推移
（単位：US百万ドル）



2016年～2020年度までの5年間の飲料・食品に関する輸入規模の推移は左図の通り。2020年度の食品輸入総額は約149億ドル（1兆6800億円）。また、ドバイは物資の集積地で物流のハブとしての存在が大きく、飲料・食品においても、周辺国、その他にも出荷

をしている。輸出においては、約 87 億ドルであった。

(1 米ドル = 113 円) 出所：ITC データより作成



上位 5 品目は、果物・ナッツ類の輸入がトップで、約 20 億ドル(2,260 億円)、次いで食用肉、約 18 億ドル(2,034 億円)、酪農品が約 17 億ドル(1,921 億円)、穀物が約 12 億ドル(1,356 億円)、野菜・根菜類が、約 10 億ドル(1,130 億円)となっている。(その他は品目別輸入実績を参照)

出所：ITC データより作成。(飲食に関する HS コードより飼料データを除く。データは 2022 年度 2 月上旬より抜粋・数値は変動の可能性もある。)

3. 主な輸入相手国 (輸入品目) :

農業大国よりの輸入が目立ち、過去 5 年間ににおいても、インド・アメリカ・ブラジルからの輸入は揺るぎないが、サウジアラビアよりの輸入も目立ってきている。食品の製造・加工業も多いサウジアラビアからは、乳製品・製菓などを輸入している。以下主な輸入国、7 カ国の 2020 年度の状況。7 カ国で全体の 43.5%を占める

単位：US 千ドル

主な輸入相手国	輸入額	構成比	主な輸入品 (輸入金額の多い順の例)
インド	1,629,124	10.9%	米・ナッツ類・紅茶・スパイス
アメリカ	1,143,647	7.7%	果物 (いちご、ベリー類) ・ナッツ (アーモンド・くるみ) 栄養補助食品・ソース類・食肉
ブラジル	1,102,091	7.4%	食肉・砂糖・コーヒー
カナダ	793,835	5.3%	採油用菜種・乾燥野菜(レンズ豆・豆)
サウジアラビア	778,384	5.2%	乳製品・ベーカリー製品 (ケーキ・ビスケット等の焼き菓子)
オーストラリア	520,648	3.5%	食肉・穀物 (大麦・小麦・コーン等)
ニュージーランド	508,216	3.4%	乳製品・食肉・果物 (りんご・キウイ)
7 カ国合計	6,475,945	43.5%	

4. 品目別食品輸入額 (世界・日本) :

5年間を見ると、日本を含めた食品輸入合計が2017年度をピークに年々減少傾向にある。

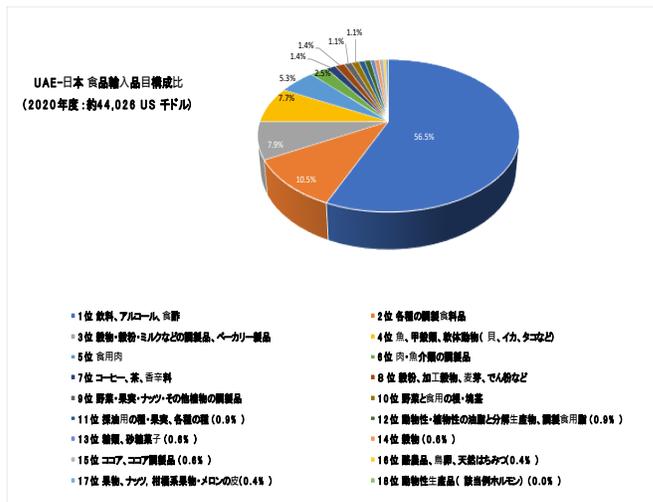
日本からの食品輸入の5年間の年平均構成比は0.35%となっている。

品目	2016年			2017年			2018年			2019年			2020年		
	世界	日本	%												
(食料・飲料に関連しない品目を除く)															
食用肉(牛肉、羊・山羊肉、鳥肉、豚肉)	1,626,971	1,116	0.07%	1,705,968	1,428	0.08%	1,870,160	1,258	0.07%	2,281,642	2,132	0.09%	1,752,583	2,342	0.13%
魚、甲殻類、軟体動物(貝、イカ、タコなど)	552,588	3,310	0.60%	617,538	3,320	0.54%	649,060	15,565	2.40%	647,939	5,422	0.84%	590,170	3,399	0.58%
酪農品、鳥卵、天然はちみつ、その他食用動物生産品	1,438,793	165	0.01%	1,816,500	46	0.00%	1,851,023	5,129	0.28%	1,726,308	123	0.01%	1,747,003	167	0.01%
動物性生産品(該当例ホルモ)	1,179	0	0.00%	1,165	0	0.00%	595	0	0.00%	1,651	0	0.00%	601	0	0.00%
野菜と食用の根・塊茎	1,262,904	393	0.03%	1,342,007	471	0.04%	973,327	523	0.05%	945,531	530	0.06%	1,016,780	472	0.05%
果物、ナッツ、柑橘系果物・メロンの皮	2,064,757	32	0.00%	2,207,729	141	0.01%	1,956,930	175	0.01%	2,363,108	376	0.02%	1,957,595	166	0.01%
コーヒー、茶、香辛料	855,049	465	0.05%	734,497	379	0.05%	731,783	687	0.09%	683,157	579	0.08%	742,296	624	0.08%
穀物	1,313,225	67	0.01%	1,300,831	57	0.00%	1,300,831	298	0.02%	1,080,277	242	0.02%	1,189,276	282	0.02%
穀粉、加工穀物、麦芽、でん粉など	123,854	382	0.31%	119,951	498	0.42%	123,563	568	0.46%	121,914	774	0.63%	124,739	615	0.49%
採油用の種・果実、各種の種(飼料用を除く)	457,510	671	0.15%	503,131	474	0.09%	496,874	545	0.11%	504,632	542	0.11%	686,269	393	0.06%
動物性・植物性の油脂と分解生産物、調製食用脂	566,124	786	0.14%	625,051	1,750	0.28%	607,631	682	0.11%	514,867	477	0.09%	488,643	392	0.08%
肉・魚介類の調製品	241,353	1,556	0.64%	250,973	1,727	0.69%	223,504	1,708	0.76%	222,196	2,245	1.01%	219,672	1,120	0.51%
糖類、砂糖菓子	398,842	455	0.11%	1,360,583	213	0.02%	763,368	138	0.02%	552,863	90	0.02%	609,842	284	0.05%
ココア、ココア調製品	516,862	703	0.14%	559,931	821	0.15%	710,087	748	0.11%	746,071	448	0.06%	561,425	271	0.05%
穀物・穀粉・ミルクなどの調製品、ペーカリー製品	1,057,240	2,866	0.27%	886,835	2,534	0.29%	856,222	2,600	0.30%	946,108	3,861	0.41%	980,659	3,489	0.36%
野菜・果実・ナッツ・その他植物の調製品	580,157	893	0.15%	586,767	462	0.08%	542,961	576	0.11%	557,516	470	0.08%	479,962	482	0.10%
各種の調製食料品	817,257	3,747	0.46%	923,939	4,966	0.54%	931,612	5,931	0.64%	914,495	6,080	0.66%	972,038	4,632	0.48%
飲料、アルコール、食酢	525,816	37,724	7.17%	1,149,992	50,812	4.42%	1,080,461	20,699	1.92%	1,144,348	21,045	1.84%	764,622	24,896	3.26%
合計	14,400,481	55,331	0.38%	17,130,583	70,099	0.41%	16,106,950	57,830	0.36%	15,954,623	45,436	0.28%	14,884,175	44,026	0.30%

(単位：US千ドル)

2020年度の日本からの食品輸入実績は44,026,000USドル(約50億円)。5年間の輸入総額に対する日本食品の平均輸入構成比は約0.35%となっており、2020年度は3.0%で平均を下回った。品目別構成比は以下。品目別では飲料・アルコールが1位で最も多く、平均構成比は3.7%となっている。

(10位以下は、1%未満で品目の箇所に記載。)



5位までを見ると、品目の1位は飲料で清涼飲料水のようにアルコールが入らないものが殆どを占め約27億円中、アルコール飲料(ウイスキー・ビール等)の輸入は4000万円程度となっている。2位はソース・調味料で、約5.2億円、3位は穀物の調整品(米菓など穀物を使用する焼き菓子類・麺類)で3.9億円、4位は魚・甲殻類で、3.8億円、(鮮魚・チルド1.26億円・冷凍マグロ4,700万円)5位は肉類で、2.6億円、牛肉の冷凍がほとんどを占め、

豚肉は400万円程度となっている。(1米ドル=113円) 出所: ITCデータより作成

5. 主要小売店：国内に本社を置く企業例

① Spinneys：国内に約 51 店舗。中東での歴史が長く、現在はドバイに本社(UAE 人オーナー)を置くスーパーマーケット。欧米の消費者が好む商品が多い。(<https://www.albwardy.com/business-portfolio/retail/spinneys-dubai-llc>)

② Carrefour：国内に 52 店舗。フランス系のスーパー・ハイパーマーケット。運営は UAE 企業でモールを海外展開しているデベロッパーでもある。特にハイパーは客層、所得層が広く、観光客など、いろいろな国籍の人々が見られる。

(<https://www.majidalfuttaim.com/en/what-we-do/our-industries/retail/carrefour>)

③ Lulu：湾岸 (UAE/サウジアラビア/バーレーン/カタール/クウェート/オマーン) アジアなどを含め 223 店舗。アブダビに本社を置く、インド系リテイルグループ。ハイパーマーケットは国内に 50 店舗程。客層もインド系・南アジア系が多い。(<https://www.luluhypermarket.com/en-ae/aboutus>)

④ Union Coop: UAE に 23 箇所と 4 箇所のモールを運営。客層は自国民・アラブ系 (中東・北アフリカ系) が非常に多い。特に自国民は割引などの特典が貰えるということもあり、非常に多く訪れる。

(<https://corporate.unioncoop.ae/en/about-us/union-coop-history/>)

⑤ Zoom: 国内に 235 店舗。キオスク・コンビニエンスストア・グロッサリーストア・スーパーマーケットと分けており、最近ではホテルや高層ビルにも店舗を広げ、あらゆる客層を取り込んで、急成長している。

Enoc(Emirates National Oil Company—政府の石油会社)の子会社。

(<https://www.enoc.com/our-businesses/other-businesses/convenience-stores/zoom>)

6. 見本市：

「Gulfood」：中東最大の食の展示会は、ドバイで毎年 2 月中旬に開催される。フード&ドリンク、飲料機器、レストラン&カフェ、フードサービス・ホスピタリティ関係者が世界中から訪れる。通常の状況下、2018 年度では、5000 の出展社、意思決定者等 97,000 の来場者との報告されている。ジェトロもジャパンパビリオンを設置する大型の見本市である。(<https://www.gulfood.com/>)

開催期間：2022 年 2 月 13 日~17 日

開催場所：ドバイワールドトレードセンター

クウェート国-食品概況

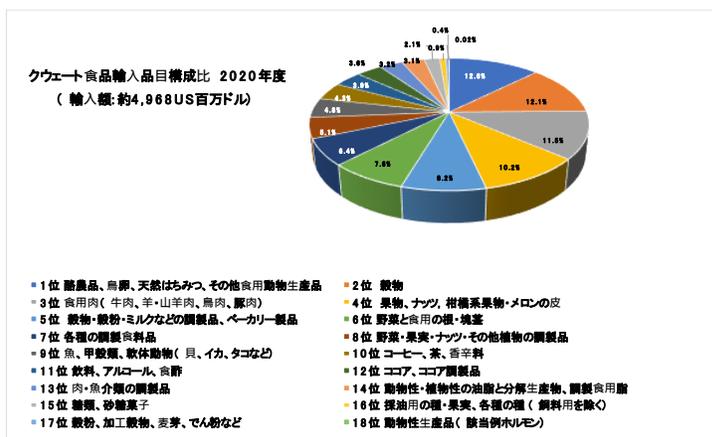
1. 国内の状況：

クウェート国の人口は約 438 万人、自国民が 30%で、70%が外国人居住者となっている。面積はほぼ四国と同じであるが国土の 90%が農耕に適していないと言われている。他の湾岸諸国同様、国が掲げる政策「Kuwait Vision 2035」でも食の安全保障や持続可能な農業を推奨しており、2020 年にはドイツの企業と中東で最初の商業用屋内垂直型植物農場を開設して葉物野菜・ハーブ類を収穫している。クウェートの食料消費量の市場規模は、湾岸諸国で 2 番目に高い伸びを記録すると予測されおり、2020 年から 2025 年の間に 4.1%。国の総食料消費量は 2020 年の 350 万トンから 2025 年には 430 万トンとの予測。人口と GDP の増加予測がそれぞれ、2.8%と 2.9%であり、特に、景気回復後、可処分所得の増加の中で、国内の食料需要が押し上げられると見られている。さらに、都市化現象はミレニアル世代を中心に、多様な料理への嗜好が高まっているようである。（Alpen Capital GCC Food Report 2021
<http://alpencapital.com/research/2021/GCC-Food-Report-2021-September-06-2021.pdf>)

2. 食品輸入規模・推移



2016 年～2020 年度までの 5 年間の飲料・食品に関する輸入規模の推移は左図の通り。輸入は上昇傾向にある。2020 年度の食品輸入総額は約 50 億米ドル (5,650 億円) と UAE の約 1/3 の輸入量であるが サウジを除く湾岸諸国では UAE に次いで 2 番目となっている。



品目別では、酪農品の輸入が最も多く、約 6.3 億ドル(712 億円)次いで、穀物が約 6 億ドル(678 億円)、食用肉が約 5.7 億ドル(644 億円)、果物・ナッツ類が 5.1 億ドル(576 億円)、ベーカリー製品が約 4.1 億ドル(463 億円)、の順となっている。(その他は品目別輸入実績を参照) (1米ドル=113円) 出所：ITC データより作成

3. 主要輸入国：

2020年度の主な輸入相手国は以下で、7カ国よりの輸入額が全体の約半分を占めており、サウジアラビア、インド、アラブ首長国連邦、エジプトなどの近隣諸国からの輸入も目立っている。7カ国でやく輸入実績の約半分を占めている。

単位：US千ドル

主な輸入相手国	輸入額	構成比	主な輸入品（輸入金額の多い順）
サウジアラビア	591,049	11.9%	乳製品・ベーカリー製品（ケーキ・ビスケットなどの焼き菓子）食肉（鶏肉）
インド	561,126	11.3%	穀物（米）野菜・根菜（玉ねぎ・ニンニク）ナッツ類（ココナッツ・カシューナッツ）果物（スイカ・パイナップル）
アラブ首長国連邦	358,323	7.2%	肉、魚介類調整品・調整食料品（コーヒー抽出物・スープ・ソース類）・紅茶
アメリカ	295,490	5.9%	果物（イチゴ・ベリー類）ナッツ（ココナッツ・ブラジルナッツ・カシューナッツを除く）・調整食料品（ソース・調味料・スープ）調整食用油脂
オランダ	229,794	4.6%	乳製品・植物の調整品（野菜加工品・果物・野菜のジュース）・野菜、根菜類
ブラジル	223,222	4.5%	食肉（鶏肉・牛肉）・穀物（とうもろこし）植物の調整品（果物、野菜ジュース）
エジプト	147,376	3.0%	果物（柑橘系・イチゴ）野菜、根菜類（いも・玉ねぎ・ニンニク）ココア調整品（チョコレートやココアを含むもの）
7カ国合計	2,406,380	48.4%	

出所：ITC データより作成

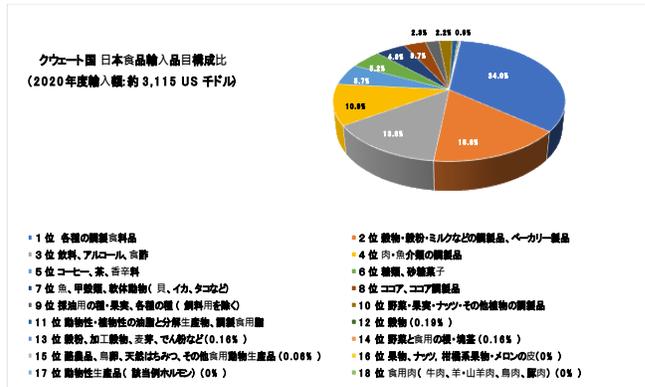
4. 品目別食品輸入実績（世界・日本）：

5年間を見ると、2016年より、食品輸入合計が年々上昇傾向にある。又、日本からの食品輸入合計は年により高低はあるものの、年平均構成比は約0.06%となっており、構成比では変化なく推移している。

品目 (食料・飲料に関連しない品目を除く)	2016年			2017年			2018年			2019年			2020年		
	世界	日本	%												
食用肉（牛肉、羊・山羊肉、鳥肉、豚肉）	478,225	0	0.00%	555,277	0	0.00%	577,678	0	0.00%	588,905	0	0.00%	571,036	0	0.00%
魚、甲殻類、軟体動物（貝、イカ、タコなど）	174,849	296	0.17%	183,038	175	0.10%	193,906	324	0.17%	196,335	264	0.13%	238,973	153	0.06%
酪農品、鳥卵、天然はちみつ、その他食用動物生産品	540,631	9	0.00%	569,032	0	0.00%	596,373	0	0.00%	585,575	3	0.00%	626,537	2	0.00%
動物性生産品（該当例ホルモン）	934	0	0.00%	421	0	0.00%	634	0	0.00%	802	0	0.00%	1,131	0	0.00%
野菜と食用の根・塊茎	319,288	0	0.00%	328,414	11	0.00%	385,794	4	0.00%	347,089	9	0.00%	377,825	5	0.00%
果物、ナッツ、柑橘系果物・メロンの皮	483,441	0	0.00%	468,123	1	0.00%	504,940	2	0.00%	547,709	1	0.00%	507,191	0	0.00%
コーヒー、茶、香辛料	129,237	118	0.09%	153,041	117	0.08%	165,356	151	0.09%	173,031	250	0.14%	213,376	179	0.08%
穀物	486,257	0	0.00%	564,331	1	0.00%	597,480	2	0.00%	675,448	6	0.00%	602,808	6	0.00%
穀粉、加工穀物、麦芽、でん粉など	22,239	3	0.01%	30,614	13	0.04%	20,192	8	0.04%	20,981	19	0.09%	21,234	5	0.02%
採油用の種・果実、各種の種（飼料用を除く）	26,883	123	0.46%	25,738	142	0.55%	31,251	220	0.70%	35,656	105	0.29%	43,666	71	0.16%
動物性・植物性の油脂と分解生産物、調整食用脂	170,818	7	0.00%	194,011	8	0.00%	201,663	7	0.00%	167,474	35	0.02%	155,971	27	0.02%
肉・魚介類の調整品	99,444	462	0.46%	128,538	423	0.33%	113,569	449	0.40%	134,591	392	0.29%	158,836	341	0.21%
糖類、砂糖菓子	118,828	30	0.03%	128,724	133	0.10%	122,227	65	0.05%	112,182	242	0.22%	105,635	161	0.15%
ココア、ココア調整品	159,860	16	0.01%	170,661	20	0.01%	195,105	30	0.02%	197,769	15	0.01%	176,410	114	0.06%
穀物・穀粉・ミルクなどの調整品、ベーカリー製品	341,384	171	0.05%	342,776	202	0.06%	365,275	376	0.10%	389,091	419	0.11%	406,381	493	0.12%
野菜・果実・ナッツ・その他植物の調整品	238,776	26	0.01%	239,995	16	0.01%	254,195	36	0.01%	324,811	54	0.02%	251,195	68	0.03%
各種の調整食料品	284,503	692	0.24%	283,235	829	0.29%	274,784	1,020	0.37%	331,831	1,335	0.40%	317,877	1,059	0.33%
飲料、アルコール、食酢	125,102	341	0.27%	127,626	415	0.33%	168,326	769	0.46%	89,404	476	0.53%	191,738	431	0.22%
合計	4,200,699	2,294	0.05%	4,493,595	2,506	0.06%	4,768,748	3,463	0.07%	4,918,684	3,625	0.07%	4,967,820	3,115	0.06%

単位：US千ドル 出所：ITC データより作成

2020年度の日本からの食品輸入実績は3,115,000米ドル（約3.5億円）品目別構成比は以下。
（12位以下の比率は品目横に記載）



5位までを見ると、1位は調整食料品（調味料など）1.2億円、2位は、穀物の調整品（米菓など穀物を使用する焼き菓子類・麺類）で約5,600万円、3位は、飲料（清涼飲料水）約4,900万円、4位は、肉・魚の調整品（魚類の練り製品など）3,900万円、5位は、コーヒー・お茶（緑茶）で約2,000万円となっている。

（1米ドル=113円）出所：ITCデータより作成

5. 主要小売店：国内に本社を置く企業例

① Sultan Center：国内に18店舗のスーパーマーケットの他にオフィスなどにコンビニを展開している。バーレーン・オマーン・ヨルダンにも進出している。

（<https://corporate.sultan-center.com/our-business/tsc-retail/tsc-kuwait/>）

② Kuwait Union of Cooperative Societies: 国内に76カ所展開しているアラブ系住民に人気のスーパーマーケット。（<https://kuccs.com.kw/Portal/>）

③ City Centre Hypermarket：国内に8カ所のハイパーマーケットを展開。食品他、日用品・衣類・電化製品・おもちゃなどを販売している。（<http://www.citycentre.com.kw/about.asp>）

その他、国内にはUAEに本拠地があるLulu(11店舗)、Carrefour(8店舗)、Grand Hyper(14店舗)が店舗展開している。

見本市：

「HORECA Kuwait」：COVID-19により最後に開催されたのは2020年であった。毎年1月に3日間開催される。2019年度の出展社は500社、来場者は2万人以上。フード&ドリンク、飲料機器、レストラン&カフェ、フードサービス・ホスピタリティ関係者が訪れる。

「Kuwait International Agro Food Expo」：最後の開催は2020年4月1～2日の2日間。出展社数、来場者数未発表。農業、ハラール食品、加工および包装技術、ホテル・レストラン・ケイタリング関連。

開催期間：2022年度未定。

開催場所：Kuwait International Fairgrounds

オマーン国-食品概況

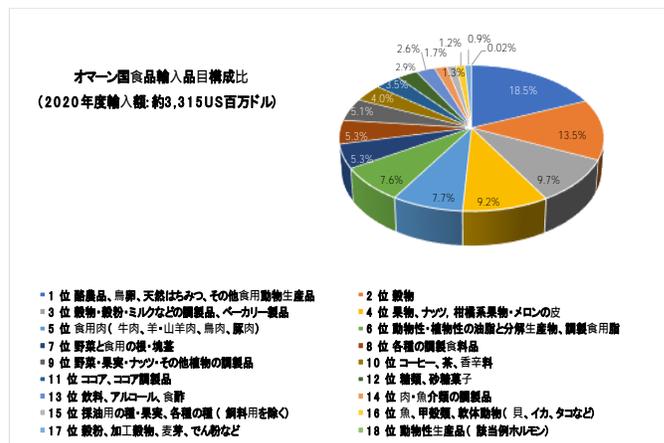
1. 国内の状況：

オマーン国の人口は約 532 万人、自国民が約 56%で、44%が外国人居住者となっている。湾岸諸国では比較的、自国民が多い。面積は日本の国土の約 85%の大きさであるが、93%が農耕に適していないと言われている。そういった中でも、山地と海岸の間に位置する肥沃な 400 km ほどの肥沃な地帯があり、地下水灌漑でなつめ、野菜、果樹を生産している他、水耕栽培も取り入れている。オマーンは魚の純輸出国で冷凍魚ではオマーンからの輸出の半分以上が米国市場に供給されている。鮮魚は、他の GCC 諸国とヨーロッパ市場に供給され、また、養殖業では白エビ・アワビ・タイ・ハタに焦点を当てている。オマーンは、湾岸諸国での食料消費量の最速成長を記録すると予測されており、2020 年から 2025 年の間に年率 4.2%で、380 万トンから 460 万トンに上昇すると推定されている。5 年間の人口の年平均増加率は 3.1%で、国内の食料消費を促進する要因となるとの予測。(Alpen Capital GCC Food Report 2021 <http://alpencapital.com/research/2021/GCC-Food-Report-2021-September-06-2021.pdf>)

2. 食品輸入規模・推移



2016 年～2020 年度までの 5 年間の飲料・食品に関する輸入規模の推移は左図の通り。2020 年度の食品輸入総額は約 33 億米ドル (3,729 億円) と UAE、クウェートに次いで 3 番目となっている。



輸入食品構成比は左図となっており、5 年間を通じて、乳製品がトップで約 6.1 億ドル (689 億円)、次いで、穀物は 4.5 億ドル (509 億円)、焼き菓子などのペーカリー製品が 3.2 億ドル(367 億円)、果物・ナッツ類が、3 億ドル(339 億円)食用肉が 2.5 億ドルで上位 5 品目となっている。

(1 米ドル = 113 円) 出所：ITC データより作成

3. 主要輸入相手国：

地理的に最も近いアラブ首長国連邦より、輸入総額の約半分に相当する食品を輸入している。物流のハブで食品加工などの製造拠点があるアラブ首長国連邦やサウジアラビアよりは乳製品・焼き菓子などのベーカリー製品類が多く輸入されている。7カ国で約70%を占めている。(国別のデータは2018年以降更新されていない為、2018年度を使用。)

単位：US千ドル

主な輸入相手国	輸入額	構成比	主な輸入品（輸入金額の多い順）
アラブ首長国連邦	1,525,278	46.6%	乳製品・ベーカリー製品（ケーキ・ビスケットなどの焼き菓子）食肉（鶏肉・羊・山羊・牛）
インド	282,403	8.6%	穀物（米）野菜（芋・トマト・乾燥ひよこ豆）・根菜（玉ねぎ・ニンニク）ナッツ類（ココナツ）果物（タマリンド・バナナ・グアバ・マンゴー）
サウジアラビア	237,960	7.3%	乳製品、植物の調整品（果物・野菜のジュース）、ベーカリー製品（ケーキ・ビスケットなどの焼き菓子）
ブラジル	67,895	2.1%	食肉（鶏肉）、穀物（とうもろこし）、調整食料品（コーヒーの抽出物）
アメリカ	52,402	1.6%	穀物（小麦・とうもろこし）、調整食用油脂（とうもろこし油）、ナッツ（ピスタチオ・アーモンド）、果物類（イチゴ・ベリー類）
アルゼンチン	43,473	1.3%	穀物（とうもろこし・大麦）、調整食用油脂（大豆油）、食肉（羊・山羊・鳥）
フランス	39,715	1.2%	ココア調整品（チョコレートやココアを含むもの）、乳製品、魚介類
7カ国合計	2,249,126	68.8%	

出所：ITC データより作成

品目別食品輸入実績（世界・日本）：

2016年から3年間は上昇傾向であったが、2019年度には対前年で14%の落ち込みがあったが、2020年には回復している。

品目 (食料・飲料に関連しない品目を除く)	2016年			2017年			2018年			2019年	2020年
	世界	日本	%	世界	日本	%	世界	日本	%	世界	世界
食用肉（牛肉、羊・山羊肉、鳥肉、豚肉）	274,858	0	0.00%	327,346	126	0.04%	314,172	0	0.00%	312,787	254,246
魚、甲殻類、軟体動物（貝、イカ、タコなど）	60,217	209	0.35%	48,708	45	0.09%	50,317	82	0.16%	46,487	41,102
酪農品、鳥卵、天然はちみつ、その他食用動物生産品	590,134	357	0.06%	622,267	100	0.02%	727,581	0	0.00%	594,607	613,789
動物性生産品（該当例ホルモン）	235	0	0.00%	112	0	0.00%	168	0	0.00%	607	818
野菜と食用の根・塊茎	145,863	13	0.01%	167,329	0	0.00%	162,405	0	0.00%	150,273	174,418
果物、ナッツ、柑橘系果物・メロンの皮	167,617	223	0.13%	218,385	518	0.24%	259,082	217	0.08%	277,929	306,284
コーヒー、茶、香辛料	66,351	2	0.00%	91,088	34	0.04%	91,591	0	0.00%	72,446	131,371
穀物	385,108	27	0.01%	424,275	14	0.00%	464,002	0	0.00%	464,321	445,824
穀粉、加工穀物、麦芽、でん粉など	38,709	3	0.01%	31,221	0	0.00%	37,554	0	0.00%	30,821	29,722
採油用の種・果実、各種の種（飼料用を除く）	16,465	49	0.30%	15,283	45	0.29%	24,465	12	0.05%	27,709	43,684
動物性・植物性の油脂と分解生産物、調製食用脂	494,292	0	0.00%	234,782	2	0.00%	226,739	0	0.00%	207,074	250,953
肉・魚介類の調製品	46,524	0	0.00%	34,791	0	0.00%	41,911	0	0.00%	82,467	57,426
糖類、砂糖菓子	75,350	93	0.12%	91,561	18	0.02%	85,994	0	0.00%	71,619	94,835
ココア、ココア調製品	86,961	173	0.20%	118,374	0	0.00%	133,594	0	0.00%	117,356	117,449
穀物・穀粉・ミルクなどの調製品、ベーカリー製品	183,731	868	0.47%	206,628	920	0.45%	204,514	74	0.04%	267,397	322,670
野菜・果実・ナッツ・その他植物の調製品	201,999	76	0.04%	213,129	49	0.02%	194,556	0	0.00%	213,969	168,980
各種の調製食料品	98,956	59	0.06%	130,577	15	0.01%	125,670	0	0.00%	143,810	174,314
飲料、アルコール、食酢	129,875	3,164	2.44%	132,551	1,872	1.41%	125,738	1,602	1.27%	184,726	86,764
合計	3,063,245	5,316	0.17%	3,108,407	3,758	0.12%	3,270,053	1,987	0.06%	2,802,084	3,314,649

出所：ITC データより作成

日本からの食品輸入は 2016 年～2018 年の 3 年間、平均輸入構成比は約 0.12%となっているが、2018 年度の日本からの輸入合計は 1,987,000US ドル（約 2.5 億円）、構成比では前年の 50%も下回っている。輸入されたのは 5 品目。品目別では、トップは清涼飲料水(1.8 億円)で 81%を占め、ついで、果物（なし・りんご・みかん・メロン・ブドウ）（約 2,500 万円）が 11%、残り 8%は魚介類(930 万円)、菓子（840 万円）となっている。

5.主要小売店：国内に本社を置く企業例

① SPAR：オマーンの手続き企業が開業している、オランダ系のスーパーマーケット。オマーンにはコンビニを合わせ 22 店舗展開。

(<https://consumer.khimji.com/grocery-retail/>)

② Al Karama Hypermarket: 国内に 10 店舗展開。

(<https://www.alkaramahypermarket.com/about-us>)

③ Babil Hypermartket: 国内に 3 店舗のハイパーマーケットを展開。

(https://www.babiloman.com/about_us)

その他、UAE に本拠地を置く Lulu(20 店舗)、Carrefour(12 店舗)、Nesto(21 店舗)他も進出している。

5. 見本市：

「Food & Hospitality Oman」：飲食関連業界・HORECA 業界の B2B 向け展示会。

(<https://foodandhospitalityoman.com/home>)

開催期間：2022 年 9 月 26~28 日

開催場所：Oman Convention & Exhibition Center

カタール国-食品概況

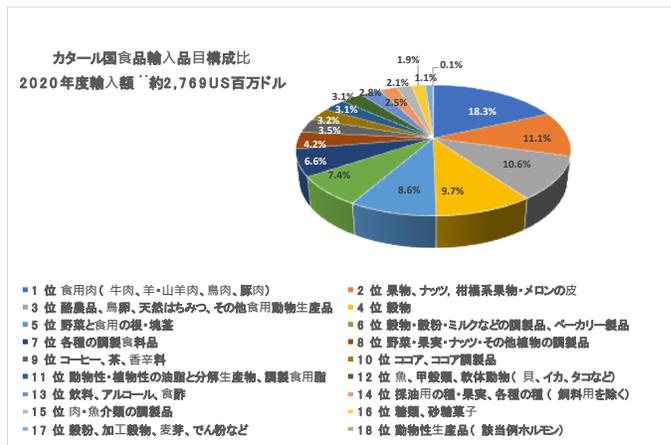
1. 国内の状況：

カタール国の人口は約 298 万人、国土（約 1.1 万 km²）自国民が約 12%、外国人居住者が 88%となっている。2017 年テロ支援等を理由に湾岸 3 カ国（サウジアラビア・UAE・バーレーン）より、外交関係の断絶・経済的制裁を受け、それまで、食料品では 8 割以上をサウジアラビアや UAE からの輸入に依存していたが、制裁の結果、乳製品、鶏肉、野菜等の食料自給率あげる取り組みを行い、生産量を 3~4 倍に増やしている。制裁解除後(2021 年 1 月)も更に水耕栽培に一段と注力し、自給率を上げる取り組みをしている。カタールの食料消費量は、2020 年から 2025 年の間に年率 0.6%のペースで成長すると予測され、食料消費市場規模は 210 万トンから 220 万トンわずかな上昇に留まると推定されている。これは主に人口の増加が 5 年間横ばいである可能性が高いと推測されている為であるが、アラブ世界で初めての 2022 年の FIFA ワールドカップの開催で 100 万人以上の観光客を見込んでおり、観光セクターには欠かせない料理のバラエティーや食料品の需要が増すと思われる。2017 年の隣国からの経済制裁は貿易の相手国の変更も余儀なくされ、解除後の動向も気になるところである。(Alpen Capital GCC Food Report 2021 <http://alpencapital.com/research/2021/GCC-Food-Report-2021-September-06-2021.pdf>)

2. 食品輸入・輸出規模・推移



2017 年～2020 年度までの 4 年間の飲料・食品に関する輸入実績推移は左図となっており、年々減少している。(2016 年の輸入実績データの掲載なし。)



品目では、食用肉がトップで、約 5.1 億ドル (576 億円)、次いで果物・ナッツ類の約 3.1 億ドル (350 億円)、酪農品が約 2.9 億ドル (328 億円)、穀物が 2.7 億ドル (305 億円)、野菜・根菜類、2.4 億ドル (271 億円) がトップ 5 位となっている。

(品目別輸入実績を参照) (1米ドル = 113円) 出所：ITC データより作成

3. 主要輸入相手国

前述の通り、輸入相手国には食品製造拠点のあるサウジアラビア・UAE は入っていない。

単位：US千ドル

主な輸入相手国	輸入額	構成比	主な輸入品（輸入金額の多い品目）
インド	389,072	14.1%	穀物（米）、野菜（トマト・芋を除く野菜類）・根菜（玉ねぎ・ニンニク）、果物（バナナ・乾燥含む）・ナッツ（カシューナッツ・ココナッツ）
オーストラリア	247,501	8.9%	食肉（牛・羊・山羊）、穀物（大麦・米）、果物（柑橘類・スイカ・メロン）・野菜（人参・カブ）
アメリカ	160,529	5.8%	各種調整食料品（ソース・調味料・スープ・アイスクリーム）果物（イチゴ・ベリー類・ナッツ（アーモンド・ピスタチオ・くるみ））食肉（鶏・牛）
ブラジル	153,989	5.6%	食肉（鶏・牛）、調整食料品（コーヒー抽出物）、砂糖
トルコ	140,521	5.1%	乳製品（鶏卵）、焼き菓子類（ビスケットなど）、果物類（柑橘類・ブドウ・サワーチェリー）
オランダ	117,789	4.3%	乳製品、野菜・果物調整品（保存用に処理した物・ジュース）、穀物・穀粉・ミルクの調整品（ベビーフード）
オマーン	100,438	3.6%	乳製品、焼き菓子類（ビスケットなど）、各種調整食料品（ソース・調味料・ケチャップ）
7カ国合計	1,280,765	47.3%	

出所：ITC データより作成

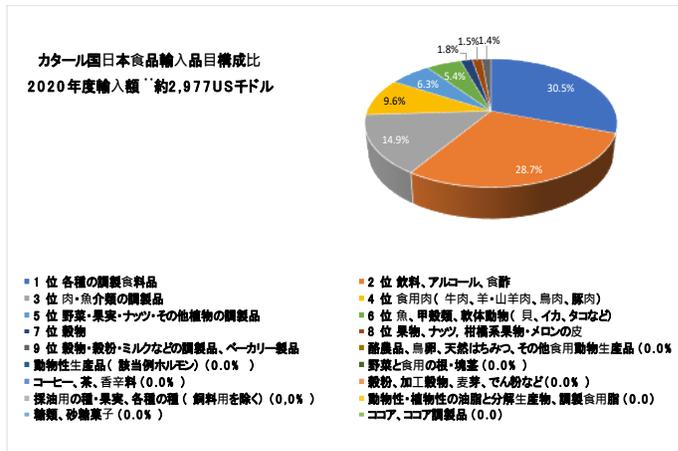
4. 品目別輸入実績（世界と日本）

4年間での世界からの年間輸入額の高低差はそれほどないが、日本からの食品輸入は2017年～2020年4年間の平均輸入構成比が0.16%となっており、2020年度は0.11%と平均を下回っている。

単位：US千ドル

品目	2017年			2018年			2019年			2020年		
	世界	日本	%									
（食料・飲料に関連しない品目を除く）												
食用肉（牛肉、羊・山羊肉、鳥肉、豚肉）	489,829	230	0.05%	522,116	180	0.03%	521,433	363	0.07%	505,326	285	0.06%
魚、甲殻類、軟体動物（貝、イカ、タコなど）	81,261	376	0.46%	85,020	202	0.24%	91,256	269	0.29%	86,372	160	0.19%
酪農品、鳥卵、天然はちみつ、その他食用動物生産品	426,332	3	0.00%	326,581	0	0.00%	298,673	0	0.00%	294,182	0	0.00%
動物性生産品（該当例ホルモン）	957	0	0.00%	1,370	0	0.00%	1,750	0	0.00%	1,716	0	0.00%
野菜と食用の根・塊茎	275,403	8	0.00%	274,777	0	0.00%	231,155	0	0.00%	239,301	0	0.00%
果物、ナッツ、柑橘系果物・メロンの皮	264,147	3	0.00%	299,247	0	0.00%	297,751	0	0.00%	307,835	44	0.01%
コーヒー、茶、香辛料	83,715	41	0.05%	80,987	0	0.00%	82,450	0	0.00%	98,148	0	0.00%
穀物	267,739	55	0.02%	286,797	36	0.01%	340,141	49	0.01%	269,060	54	0.02%
穀粉、加工穀物、麦芽、てん粉など	32,730	43	0.13%	25,236	0	0.00%	28,074	0	0.00%	29,149	0	0.00%
採油用の種・果実、各種の種（飼料用を除く）	36,926	96	0.26%	54,298	0	0.00%	57,320	0	0.00%	68,950	0	0.00%
動物性・植物性の油脂と分解生産物、調製食用脂	110,561	37	0.03%	98,947	0	0.00%	83,274	0	0.00%	86,620	0	0.00%
肉・魚介類の調製品	64,064	459	0.72%	69,746	318	0.46%	73,121	451	0.62%	58,951	443	0.75%
糖類、砂糖菓子	60,303	14	0.02%	63,933	0	0.00%	52,144	0	0.00%	53,500	0	0.00%
ココア、ココア調製品	99,634	52	0.05%	103,140	26	0.03%	102,989	23	0.02%	87,753	0	0.00%
穀物・穀粉・ミルクなどの調製品、ベーカリー製品	238,794	380	0.16%	190,113	140	0.07%	202,482	0	0.00%	203,725	42	0.02%
野菜・果実・ナッツ・その他植物の調製品	123,534	178	0.14%	93,940	0	0.00%	119,436	105	0.09%	115,746	187	0.16%
各種の調製食料品	182,871	1352	0.74%	173,799	2,253	1.30%	183,645	4,620	2.52%	183,993	907	0.49%
飲料、アルコール、食酢	179,202	1137	0.63%	126,038	1,782	1.41%	81,328	231	0.28%	78,265	855	1.09%
合計	3,018,002	4,464	0.15%	2,876,085	4,937	0.17%	2,848,422	6,111	0.21%	2,768,592	2,977	0.11%

出所：ITC データより作成



18品目のうち半分の9品目のみの輸入となっている。上位5品目を見ると、各種の調整食料品(調味料)がトップで約1億円、飲料・アルコール(清涼飲料水のみ)が9,700万円、肉・魚介類の調整品(魚・魚介の練り製品・魚卵)が5,000万円、食用肉(牛肉冷凍)が3,200万円、野菜・果物・ナッツの調整品(保存用に加工された物)が約2,100万円となっている。(1米ドル = 113円) 出所：ITC データより作成

5 主要小売店：国内に本拠地を置く企業例

① Al Meera：スーパー・ハイパーマーケット・コンビニを合わせ、国内に50店舗展開している。

(<https://www.almeera.com.qa/our-stores/al-meera-supermarkets-and-hypermarkets>)

② Saudia：国内に6店舗のハイパーマーケットを展開。カタールが本拠地のグループ企業が運営、同名のデパートを3カ所に展開している。

(<https://saudiagroup.com/about-us>)

③ Monoprix：フランスのハイパーマーケットチェーン。カタールの小売・流通の大手が展開しており、カタール内の高級な地区に5店舗、その中の一つは世界最大の大きさのハイパーマーケットと言われている。その他、Monopというコンビニを3カ所に展開している。(<https://www.monoprix.qa/monoprix-me/>)

その他に、他の湾岸諸国同様に Carrefour (8店舗) , Lulu (18店舗) など UAE を拠点としている企業が展開している。

6. 見本市：

Hospitality Qatar：飲食関連業界向け(HORECA)の展示会。2021年度は11,000人の来場者、出展社数、170社。(<http://www.hospitalityqatar.qa/>)

開催期間：2022年6月21～23日

開催場所：Doha Exhibition & Convention Centre



Qatar Foodex : 飲食・食品加工・冷蔵・パッケージング技術関連の展示会。過去の来場者・出展社数の情報は無い。

開催期間 : 2022年3月27～29日

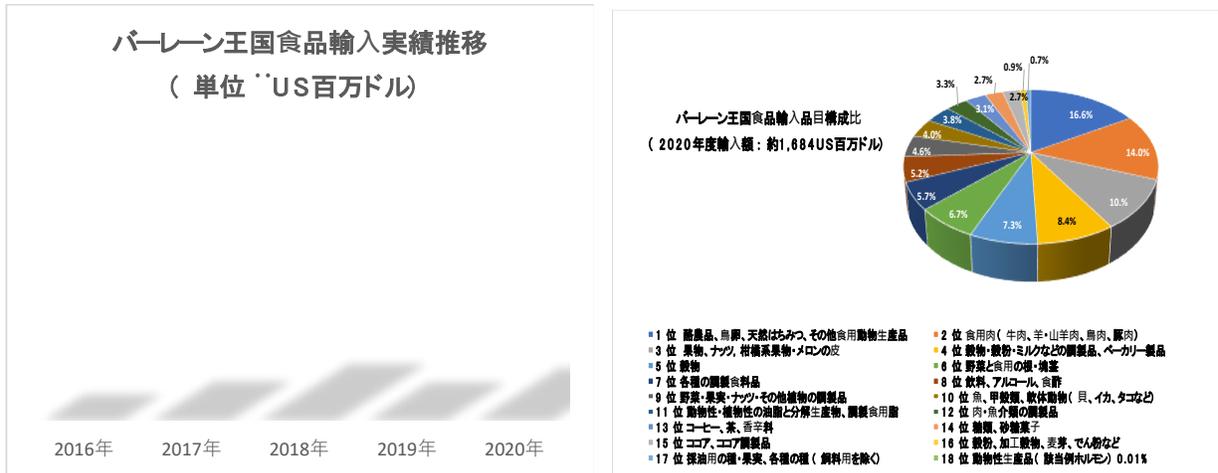
開催場所 : Doha Exhibition & Convention Centre

バーレーン王国-食品概況

1. 国内の状況：

バーレーン王国の人口は約 178 万人、国土（770 km²）も湾岸諸国の中では小さく、最も人口が少ない。自国民が約 46%で、54%が外国人居住者となっている。湾岸諸国で最大市場規模を持つサウジアラビアとコーズウェイでつながっており、週末はサウジアラビアから自由な雰囲気のあるバーレーンへ行く人々が多く、レジャー施設・モールなどが賑わう。86km²程の農耕面積があり、ナツメヤシの栽培が殆どであったが、灌漑源となる帯水層の塩分濃度の上昇など、いくつかの要因により、かなりの数のヤシの木立が、野菜畑、樹木や花の苗床、養鶏、酪農などの新しい種類の農業活動に取って変わられた。また水耕栽培も導入、葉物野菜、トマトを栽培している。バーレーンの食料消費量は、2020 年から 2025 年の間に年率 4.1%のペースで成長すると予測され、食料消費市場規模は 90 万トンから 120 万トンに上昇すると推定されている。湾岸諸国の中でも人口が最も少ないにもかかわらず、2.0%の人口増加と 3.4%の GDP の上昇が予想されており、これにより、パンデミック後の景気回復後、国内の食料需要が後押しされると予想。さらに、停滞していた観光客の流入の復活は、中期的には国の食品産業にとって良い前兆となると思われる。(Alpen Capital GCC Food Report 2021 <http://alpencapital.com/research/2021/GCC-Food-Report-2021-September-06-2021.pdf>)

2. 食品輸入規模・推移



2016年～2020年度までの5年間の飲料・食品に関する輸入規模の推移は左図の通り。2020年度の食品輸入総額は約17億米ドル（1,921億円）と湾岸諸国では一番人口が少なく、食品輸入額も少ない。

品目では（右図）、乳製品がトップで約2.8億ドル（316億円）、食肉が約2.4億ドル（271億円）、次いで、果物ナッツ類の約1.7億ドル（192億円）、ベーカリー製品が約1.4億ドル（158億円）、穀物が約1.2億ドル（136億円）、野菜類が1.1億ドル（124億円）で上位を占め、順位は5年間変化なく推移している。（品目別輸入実績を参照）（1米ドル=113円）出所：ITCデータより作成

3. 主要輸入相手国 :

隣接しているサウジアラビアからの輸入が最も多い。サウジアラビアには世界最大の酪農・乳業会社や食品加工会社があり、湾岸諸国にも出荷している。

単位：US千ドル

主な輸入相手国	輸入額	構成比	主な輸入品（輸入金額の多い順）
サウジアラビア	273,247	16.2%	乳製品、食肉（鶏肉・羊・山羊・牛）、ベーカリー製品（ケーキ・ビスケットなどの焼き菓子）
インド	174,642	10.4%	穀物（米）、食肉（牛・鶏肉・羊・山羊）、果物（スイカ・バナナ・タマリンド）・ナッツ（カシューナッツ・ココナッツ）
アラブ首長国連邦	102,005	6.1%	肉・魚介類の調製品（鶏肉の調整品・保存処理肉・ソーセージ状の加工品）、ベーカリー製品（ケーキ・ビスケットなどの焼き菓子・焼き菓子用生地）野菜・果実・ナッツ・その他植物の調製品（アイスクリーム・スープ・ソースなど）
アメリカ	92,624	5.5%	乳製品、食肉（鶏肉）、果物（イチゴ・ベリー類）・ナッツ（アーモンド・ピスタチオ・くるみ）、調整食料品（ソース・調味料など）
ブラジル	70,224	4.2%	穀物（小麦・とうもろこし）、調整食用油脂（とうもろこし油）、ナッツ（ピスタチオ・アーモンド）、果物類（イチゴ・ベリー類）
イギリス	46,424	2.8%	アルコール飲料（ウイスキー・ビール）、ベーカリー製品（ビスケット・その他の焼き菓子）、調整食料品（ソース・調味料・コーヒー抽出物）
オランダ	43,885	2.6%	乳製品、穀物・穀粉・ミルクの調整品（ミルクベースのベビーフード）焼き菓子類（ビスケットなど）、アルコール飲料（ビール）
7カ国合計	803,051	47.7%	

出所：ITC データより作成

4. 品目別輸入実績（世界・日本）

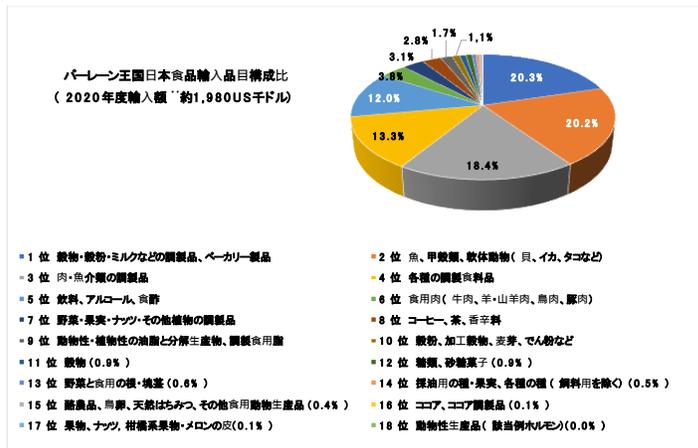
5年間では、2018年がピークとなっており、以降は減少してはいるが徐々に上昇している。

単位：US千ドル

品目	2016年			2017年			2018年			2019年			2020年		
	世界	日本	%												
(食料・飲料に関連しない品目を除く)															
食用肉（牛肉、羊・山羊肉、鳥肉、豚肉）	221,195	5	0.00%	230,108	43	0.02%	237,097	71	0.03%	238,184	76	0.03%	235,368	75	0.03%
魚、甲殻類、軟体動物（貝、イカ、タコなど）	37,642	238	0.63%	38,969	312	0.80%	64,798	219	0.34%	84,533	163	0.19%	67,987	399	0.59%
酪農品、鳥卵、天然はちみつ、その他食用動物生産品	259,246	3	0.00%	258,649	9	0.00%	287,999	27	0.01%	255,861	5	0.00%	279,745	8	0.00%
動物性生産品（該当例ホルモン）	250	0	0.00%	310	3	0.97%	258	0	0.00%	195	0	0.00%	111	0	0.00%
野菜と食用の根・塊茎	116,666	63	0.05%	123,987	80	0.06%	121,377	53	0.04%	109,554	14	0.01%	112,694	12	0.01%
果物、ナッツ、柑橘系果物・メロンの皮	161,099	2	0.00%	184,066	0	0.00%	179,788	3	0.00%	164,344	3	0.00%	173,772	1	0.00%
コーヒー、茶、香辛料	39,450	31	0.08%	41,788	32	0.08%	42,522	47	0.11%	42,871	25	0.06%	52,640	55	0.10%
穀物	83,525	1	0.00%	103,419	20	0.02%	119,931	8	0.01%	109,369	2	0.00%	122,150	18	0.01%
穀粉、加工穀物、麦芽、でん粉など	8,974	5	0.06%	11,565	8	0.07%	13,425	6	0.04%	15,617	31	0.20%	15,377	22	0.14%
採油用の種・果実、各種の種（飼料用を除く）	11,720	28	0.24%	11,695	26	0.22%	10,454	18	0.17%	11,009	10	0.09%	12,339	9	0.07%
動物性・植物性の油脂と分解生産物、調製食用脂	52,008	14	0.03%	55,600	21	0.04%	64,779	22	0.03%	54,379	23	0.04%	64,758	34	0.05%
肉・魚介類の調製品	47,859	727	1.52%	48,395	725	1.50%	51,121	553	1.08%	48,400	726	1.50%	55,701	364	0.65%
糖類、砂糖菓子	76,361	2	0.00%	57,775	14	0.02%	56,435	26	0.05%	52,304	4	0.01%	45,487	18	0.04%
ココア、ココア調製品	44,938	1	0.00%	43,891	4	0.01%	46,982	3	0.01%	47,376	0	0.00%	44,638	2	0.00%
穀物・穀粉・ミルクなどの調製品、ベーカリー製品	121,882	361	0.30%	127,534	356	0.28%	132,953	371	0.28%	131,213	420	0.32%	141,188	401	0.28%
野菜・果実・ナッツ・その他植物の調製品	90,312	37	0.04%	88,266	50	0.06%	87,383	95	0.11%	77,133	91	0.12%	77,190	62	0.08%
各種の調製食料品	96,966	369	0.38%	98,791	419	0.42%	92,589	415	0.45%	90,769	383	0.42%	95,286	263	0.28%
飲料、アルコール、食酢	95,984	505	0.53%	99,790	518	0.52%	95,506	182	0.19%	89,193	277	0.31%	87,644	237	0.27%
合計	1,566,077	2,392	0.15%	1,624,598	2,640	0.16%	1,705,397	2,119	0.12%	1,622,304	2,253	0.14%	1,684,075	1,980	0.12%

出所：ITC データより作成

日本からの食品輸入は 2016 年～2020 年の 5 年間の平均輸入構成比は約 0.14%となっており、2020 年度の食品輸入合計は 1,980,000US ドル（約 2.2 億円）、総輸入額の 0.12%と平均を下



回った。品目別構成比は左図。(11 位以下は品目横に記載) 上位 5 品目を見ると、1 位の品目（ビスケット・米菓・麺類）で約 4,500 万円、2 位の品目（各種の魚で冷凍が一番多い、甲殻類—冷凍・鮮魚・冷蔵を含む）も約 4,500 万円、3 位は肉・魚介類の調整品（保存処理した魚）で約 4,100 万円、4 位は各種の調整品（ソース・調味料等）約 3,000 万円、5 位は飲料（清（涼飲料水・ウイスキー等）

の約 2,700 万円となっている。(1 米ドル=113 円) 出所：ITC データより作成)

5. 主要小売店：国内に本社を置く企業

① Al Jazira Supermarket：国内 11 店舗のスーパーと 5 店舗のコンビニを展開。
(<http://aljziragroup.com.bh/>)

② Midway Supermarket：国内で 10 店舗展開している。
(<http://aralamin.com/midway-supermarket/>)

③ Alosra Supermarket: 国内に 9 店舗展開。グループ企業の他の部門ではコーヒーショップ・レストラン・酒の販売店などがある。
(<https://www.bmmigroup.com/divisions/supermarkets/>)

上記の他に、他の湾岸諸国同様に Carrefour（7 店舗）、Lulu（9 店舗）、Nesto（11 店舗）など UAE を拠点としている企業が展開している。

見本市：

「Autumn Fair」：商品はファッション・アクセサリ・家具・照明器具・革製品・キッチン用品・化粧品・食品等多岐にわたり、B2C/B2B 両方を目的に展示・販売を行っている。2020 年度の来場者は 16.5 万人、出展社 650。

開催期間: 2022 年 12 月 15 ~ 23 日

開催場所: Bahrain International Exhibition & Convention Centre



UAEプラットフォーム・コーディネーター：GEN EVENTS LLC

日本貿易振興機構（ジェトロ）ドバイ事務所

35th Floor, #3503 - #3506, The One Tower, Barsha Heights, TECOM, Dubai, U.A.E.

【おことわり】本資料は「UAE 中小企業海外展開現地支援プラットフォーム事業」の一環として作成したものです。提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご利用下さい。ジェトロではできるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本資料で提供した内容に関連して不利益等を被るような事態が生じたとしても、一切の責任を負いかねますので、予めご了承下さい。